

随 想

日中医療保険制度の違いについて有感

張 辛茹

社会主義の中国に生まれて、社会主義の中国で育った私は、日本に留学に来て先生から初めて国民保険に加入しなさいと言われました。区役所で加入手続きをし、それから毎月保険金を払うようになりました。病気にかからなくても毎月お金を払うという日本人にとって常識のことが日本にくる前知りませんでした。

日本の社会は保険社会といえます。医療保険制度はその社会の一環にすぎません。人々は何時どんな病気にかかるか予想できないし、誰でも重病にかかる可能性があるという出発点から、病気でないときに病気にかかる準備をし、人々が自らお金を出し合って、助け合う社会を造ろうという趣旨から医療保険制度が生まれたというのが私の理解です。

私の知っている限り、中国の医療保険制度について簡単に紹介します。中国では国の機関に勤めている人々は家族を含めて医療費用は無条件でほぼただですが、国の機関以外、特に人口12億の内8億を占める農民たちの医療費用は全部自費なのが現状です。むかしのように国全体の物価が安いときには問題が大きくなかったのですが、経済改革以来、インフレのせいで医療費用が物凄く高くなってきているため従来の医療費用制度は前例のない深刻な問題となっています。国の機関に勤めている人々が、いろんな名目で栄養薬や医療品以外の物をただで貰うという医療制度を悪用するケースをよく耳にします。一方、8億の農民たちは重病にかかっても医療費用が高すぎて病院に行けないし、お医者さんに見てもらえないケースが多くなってきているそうです。また、病院の方も利益追求で、患者さんが先にお金を払わないと手術をしてくれないこともあるそうです。

50年近くいわゆる純社会主義だった中国は、現在経済改革に伴っていろいろな新しい問題が出てくるのは避けられないと思います。大事なことはこれからどのようにバランス良く改革して、平等・健全な社会を造っていくかということです。医療保険制度の確立・改善もその一つです。中国にとっては同じアジアの国である日本から多くの面で見習うことが沢山ありますが、日本で医学

を勉強している私としては、医療保険制度の改革について何か役立つことができると思っています。

(名古屋大学医学部大学院生)